さらどもり池の水りの
そらさらと鶴をまねき
きくのみを取すり禅定なる
らと法の道今ハ菩提の
岸によせくる船のうちよ
りでいよいよきうちつまそ
苦の都に上りけるらく

大會

ふしぎや虚空に音楽聞ゆ
らし佛の御声がうちらふ
なゆる眼をさましきおどり
ところさば山ハもなりら霊
山となり此地ハこんぜう記
あハ文ちき菩提樹となりそ
釈迦如来獅子の座にあ
らせ給へバ普賢文殊
左右に居給へり菩薩聖
衆雲霞のごとくなるこの

うへは龍神八郎とのゝ
たまひつゝ移りせり

東小

所は九重塔婆の霊地よ
て宝城の鬼門を守りて
悪魔とりゝ雪の白妙
山法の加茂川やまも白
川乃流れもつきぬ
ハ常ふの流れとなりや

龍王ハ池水をたゝへつゝ
宮ハ池中の樹陰ハたゝ
く月下の門出入人影
此神をつゝ祭りもとを
めて色めく者ハげ
花の都なり見仏閣
の数く順逆の像ハ
小日釈朝雲ハ懸
三仏乃なつたけて妙きるけ

りく為[illegible]閑庵の松の風
[illegible]の枕をそそる
上求菩提のこころをみせ池水
[illegible]つる月新ハ下化衆生
の相をえらん東が陽の
時を[illegible]げまく志[illegible]

盛久

[illegible]在霊山浄土名八法華一
[illegible]西方のりと又法[illegible]
[illegible]示現し給いく我が為の
[illegible]世音三世利益同
[illegible]の誓いいつでもうべきや
[illegible]久の絶の道もくもり
[illegible]頼もしや

郭郭

[illegible]つくく人間の[illegible]を案
[illegible]百年の歓楽[illegible]

終にはゆめ[illegible]ゆめ[illegible]千年の
栄花とて[illegible]の[illegible]
までなり栄花乃聖[illegible]
[illegible]の長さも五千年の
[illegible]長[illegible]なるまバ是
までなり実[illegible]も一[illegible]
[illegible]乃夢[illegible]南無三宝[illegible]
[illegible]里へバ[illegible]を[illegible]
[illegible]

[illegible]乃げ[illegible]
[illegible]の世[illegible]
[illegible]

教盛

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

其名ハ森といいまそて姿め
も見えぞ淡にこそけりく

本藏

廬山乃いふへを思ひめぐらバ
ごろれをこし迄も湧て来る
瀧乃音も形と思ふく飲酒の
なさけて知らつせし石
まよ

輪藏

ゆききをしゆ濡乃花もと
色くにく敷ハおほき
通ひかうさやりハ急らつ
ど胸の月雲らじや三蔵
唯一忍のおなし所ハ心の
玄居か辰ハ動ぞて天を川
星ハめぐらす輪蔵を開
きて静よ切るを謂へや

巳

古への是らを君よ名ハ今も
かしこき月のよし仲乃
御よし現ト作となり世を常
り給へる權しき勢かり
ろ我讓人を一樹の陰他生
の縁と思ふも松が緑よ
讒居し夜ごろ経るを
清浦して五十鈴とかなく
まの給へべし勢値遇
うれしみ勢き値遇りま

巻結

きもとば天の浮橋うちとん作
近ハ行基菩薩の作とそれ
葛山の叔迹のことしに契り
て真ふくちせんあいきつ
と御寺あればやはれよか
じょうえに契りしそのうい
あまさ文殊乃御顔とね

むなりとたづねいはく佛しくを
あらしもも和尊の德はは
らもや又神は出雲八重が
きがさきのまむきの世の
なりつゝ共はくゆつゞ
神の志多人又多稼の風の
けとやはもとあるる

熊坂

謡
師匠とはにうけぞ
たゝしその名は名ぞ
ともも受まこゞそれ社
ゆよ有縁や迦葉の草
本面ぞまぞゝさなな
見バまきて其紙ふゝ心
あくなくとも極とて迦
向なれうかまでハめ
すべさ

半蔀

[illegible]氏の中將とゆへ[illegible]ハ
[illegible]の[illegible]花だにかりぶ[illegible]
の秋をすぐし[illegible]をきけバ
[illegible]や[illegible]獄[illegible]の
[illegible]声[illegible]南無[illegible]菜[illegible]
[illegible]勤[illegible]佛[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]を[illegible]お[illegible]
時の[illegible]

[illegible]

舍利

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今

[illegible]
[illegible]

てらし庭乃松風さへかへり
夜更行鐘乃声までも心
耳をすまし緑樹笙の笛
や峯颪松谷の水の音すま
まつ嵐や流れを唱ふらん
し

六浦

あかしの心に叶ふ称名の声
さ清乃声も松風もや更
すぐれ秋の夜の月澄渡る
庭の艸もみぢもせん有り面
白やし

今

されバこそあづまの奥の
山里に行くさなかなる都人
乃秋を添へき言の葉に残
露の情に引きかへてあはれさま
三へ数くふ言葉ふ残りまし

ちぐのえんがうきよかぎり
ときづけて佛果を思し
め給へや

今

八声の鳥も数々に鐘もき
こゆる暁がねの声これも六
浦の浦風山風荻吹きわたり
吹き渡り散る木の葉の月
よ照らしくかく堪へなし
乃庭の松も照らなば恥りし
いと陰りて仲山路をゆく
かく思へば本懐男乃月の影
かし思へど木の間の月影
げろう姿よ脆くなり

知章

きのふハ人のうへぞ今ハ我を
もとむる月の出るとら馬
乃家ぐなしパ清りまでき

つ佛菓ふるまり給へや

唯一念のくりさだるが

三悪の罪ハ消ぬべしまた

てゆくもとく法の道是

ほとりもなき弘を道俗

なぐかけ流べきハ

祐

文月七日のあるきやう月九

月ぞうきたにあき秋千色

万撞のうちを人ゝ聞也

もや月の色風のけしき

歌ゆとく霜までもこゝ張

まぐさき杉節よ張の音

秋行し悲しを北色出

の秋まで聞くみつる霧

漏ぼろくぞ聞く

張の青やん

踊法師

傳へ伽紙一行の炎羅のたび
じく御究道乃巻までも九
曜の曼荼羅の光明が無く
として行末を思ひ給ひ
けるとかや今も末世といひ
ながらさすが名におふこの
寺乃佛法最初の天王寺
の石鳥井ここなれや立
寄て拝まんいざ立よりて

をがまんせて

今

花をさへうくる施行乃
色ことぐく匂ひ来けり
梅が枝も盛なきや難波男
るゝ法ならぬ遊びしたまむ
ま舞うたふ誓ひ乃網にハ
もるまじき難波の海ぞ
頼もしき[illegible]や有気

我しまでみるに花すう梅の
枝の花の色の長閑けさハ
なほもの法のようもしれず

〈

今

金堂に御本尊ハ如意輪の
佛像ハ世観音とも申とか
さるの御品出震旦國の思
禪師まで流せ流る故地

離れ佛像より意じ今
日域に至ると佛教宣揚の
御中ずると頭を流る御感光
乃滅なりかなや高世相應の
ことわり無るに諸国の佛
閣乃作りのかぎと赤梅
檀の表まで摺の金
寶より至れまで閻浮檀金な
るものや 万代ようする光

井の水は底まで澄み渡り
天の雲影池の水に
つゞて深き久しきを
立圃の人々と道に
どの雲ともなる
波の音は絶の声
る秋きて
ひとり堀の
山も皆成佛の姿なり

宝井

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くんじゆ相はまりたる
所まめしく感涙袖をうる
るほせばたゝやの行や書乃
教化やの山ごしの雲にのり
く霊山をあゆませ給ひ
ける

身延

一念三千乃花くんじゆ我
宗の時為現清澤の光明乃
床の上に一心三観の月みて
一乗妙法の蓮華を今さらに
身延山の風水に清流の声
をくく月無の雲独なり
ける

今

実方猛き法の道かくす
くるかぬるかぬるかぬ
やまぢと思ひつゝまつのまろ

なをさとりぐく得脱成佛
の法なりがたき輪や頼
もしや聞法の声を時も
ずぐ皆も入相
の鐘聞きき月ぬく美も城
を敷法の場分延の山せん
風の音水の色もものづく
法皇相と聞きつ菓
西方成仏の

放生川

昔
えいぜんぜうぐぜうぐとなな
んとぐぐとぐもも同
じ神聞りて法ぶやうか
ら水猫と水底より沉もぶ
魚ハもろぶ魚ふぶや
水をうがりて岸法のだん
ぐぐぐぐぐぐれ魚のあぶ

[illegible]

菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のりの木の実をかき集
めけるその名残と思らん

土車

頃更東西信濃路や善光寺の
かけ橋かけてまたれるも
よそからぬ法の声立て殊
諸人乃情を他のちからもち
きとあるを済度佛乃誓願も
あまねくあらきまで世済へ
人ごと衣をのせまとし弘仏ぞ
うへなき佛ハ衆生を哀まと
思召されバ路更親ケ数
たのミ頼む中ニまた済絶ハ
毋みてましぬせバ父まとあ
なせてただ世済へなままみ
ざ阿弥陀佛ハし鉦鼓
の菩薩声ニ花のふり敷
あちまきと声一の笛和琴

声とけてまけべども父
も答へぜけされとだる
とゑてまさへバりしそれを
ぞさき君も今たちと我か
捨てくれりし後うち捨
て程もし

今

九こゞの悲歎よか破戒闡提
をともよまん一念十念せん
聞ふ後哩よむかへられ魚し
やむ五劫思惟の本願なり
罪きもバよやその心善悪
人無他方便唯除得
生極楽しとおせ給へる此
理りよ任せて哀ゝとた
かい
けおもしませし

現在七面

尾のよ紙風の音まで

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜〻部

千[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅葉狩

[illegible]

頼政

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三井寺

月ハ山風ど吹南よりのうを
〳〵波を雲岸の森月と
天海ごしの水に向る軒
なきて月ハまさしの鏡山
山田夫橋の海〳〵毋の夜るハ
通ふ人なく共月の清りで
とのづ〳〵船もうごれてづ
らん毋べとこがきづ
〳〵

仝

月落島帰〳〵霜天に満て
冷〳〵江村の漁火ほのう
に寒秋の鐘の響ハ客を
紅葉を通ふらん蓬窓雨
まで聞て釣〳〵怪路の
揺拵ぶうを松でかりは風
ハ浪風を動して秋の秋
まで〳〵月すむ三舟ぶ

帰るぞまゆきまれ

天鼓

面白や時もげに秋風楽なれや松の声柳葉を払つて月も涼しく星も相逢ふ空なれや烏鵲の橋のもとに紅葉を敷き二星館の前に風冷やかに夜更けて夜半楽にもはや成りぬ人間の水は南星は北に拱くの天の海面雲の波たち添ふや呂水の堤の月に嘯き水に戯れ波を穿ち袖を返すや夜遊の舞楽も時去りて五更の一点鐘も鳴り鳥は八声のほのぼのと夜も明白む

時の報数八ツ鳴ちまく
の声ふけ行寂そうづか
ゆめうやまく行寂てうて
か夢はぼろ〳〵と社なり
ふくれ

融

景晴
実やいつへを月えち
かの塩ぐまのかく浦もの
秋をなうてうて報を

立つなりやきりけ雁の鳴
がくれつぎ我も立渡り雲の
跡を陸奥のちの浦もを
掃めんやちかのうゝりを添
めゝ

宗安

景春
もこぶ雪の新ちりゝ
つゝ勝の雪は庭まく色
ちくもりきれの花をた

まつる藤のかゝりゆく雲を
霞のかゝり語り添へし

小袖曽我

蝶のかざしは昔しのばゆ
兄弟めぐりあふまとやかぎ
その親まれ契りよ思へば深
とつきせぬ名残ぞしか
のかりでふちきんやあらん
よそ眺めして行く山の富士の
こかりれわをえて年来
のかうきち本望をとげんと
だびま男子ぎんかのほの
たむ森の煙を富士おろし
まぢらして月を清見が
関に縁まも名をとめん
なの兄弟親者行のためし
しにならせぞうきよ

竹生島

ホハ海の上〳〵國ハあ
れ江ゝ近き山〳〵の色
なれや花ハ散ぬる白
雪乃降るゝ時きぬ
出ハ郭の冨士なるもや牧
き人ゝ多き春日ゝ沈長の
根岸し吹とても沖こぐ
舟ハとつさ〳〵旅のなら
ひの里〳〵も雲井のまた
見し人も同じ毎ゝ別
衣浦を漕く行程ゝ行
生洲もみへたりや緑樹
陰ゝうんて異郷にのぞる
紅色あり月海上ゝう
かんぐハうさゝも涙を
しぼる面白鳥鳴のけし
きゝや

河清

[illegible]

[illegible]の風をあつまるとて[illegible]
けり[illegible]難波の芦の浦
風を[illegible]宮こ[illegible]伊勢の海萩
の青をとくとく[illegible]
ほやく煙も今は絶えなり
月見んとそれ[illegible]
[illegible]
[illegible]海人
[illegible]
ふいりそ[illegible]

小原仰華

[illegible]
[illegible]光院の[illegible]
[illegible]
あひく青柳をみざ
しつ池の[illegible]
ら[illegible]
[illegible]
[illegible]

山時鳥の一声も君の帰
来を待ちがほなり法堂
池の汀を叡慮ゆゑ池
水はみぎはの橋ちり来
涙の花も散きまり風吹れ
朝ふるにけり岩ひまより
落くるみづ水の青き
しらいとのごとく岸の垣
もいたゐの山繭よかくよも

筆ふるびがくしを一字
の内書あり驚やぶきて
はきりふんれ香を焼き
ぼ長やちそ八月も又常
住のまし火をかぐとも
がる所の物もこそ

景清

今ハ世をまこうあしぎ
如ちう九餐と悪七兵衛景清

なんどゝまぐこゝろなくさが夢
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の却しまよ。柳又酒ハ荒
樽ゝ手ゝ酒を きゝゆる
ハ少酒とけもやらん さ
もがふ我も平泉なり物
語ゝ思ひ出て少ぐさ
を中を毋て

二人静

謡 本乃め春雨ふるとくもり
ゝ 代清がうさ此野

道の雪消下なり若葉を
パ今いくら有てつもし
春雨ゝ平やみ
の山を出て白雪の
消し涙ゝ道ゝ
ゝ

安達原

謡 柳ゝを春雨あくり来タ
顔の窓と寒しハ眠れ

糸の冠きし、うれハ名た
うき人やうん　陸　秋義乃王
あきよりかぐりしハ　長　糸毛
の車と私きけ　陸　多勝亀
をさりりる吸結ハ　長　名人
多き書紙書　陸　ほる出名
秋の糸ずき　長　月ふよる
をやまちめうん　陸　今ハる
様ゞ名糸氏　長　書命の

つきなきを　寿　秋義乃
つきなきを思しあり　秋
浦ゝ名書をりを　秋　独り　寿
あるし

後寛

家と　寿　同　宮居と王
熊野の　浦の　名
ゆふ　人なり　麻衣の　名
ゆくと　たゞ　手　の白　絶て

[illegible]

[illegible]

松風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あま[illegible]月の入る
や嶺[illegible]月かり
月ハ[illegible]ばかり
こゝ幅のまゝ車小月を
のせくらしゝ思ふ
[illegible]りたゝや

西行櫓

[illegible]ハ海ハ柳櫓をこきまぜ
て都ハ春の錦まきらんた
[illegible]の櫓を櫓ときを
[illegible]の名ハ[illegible]
[illegible]の花ざかり雲[illegible]や雪
[illegible]小路ちらん[illegible]海[illegible]の花
[illegible]四天乃[illegible]花も是
[illegible]ハいそでまきるべきなら[illegible]へ
[illegible]谷下河[illegible]
[illegible]遍昭僧正乃[illegible]を
[illegible]花[illegible]

三山の花の色は
つるのはまでもうつる
ら
ゆく春なり清水寺
の地主桜花枝の
明山ぞ又嵐山
おつる滝津瀬まで
大井川井せきよ
ぞやり
ぞら

高城

ちや若狭の山ぐ
けて通へや若狭の
乃京は是なるぞ
もどめて大和舞
なぞん

鞍馬天狗

花さくはぱ
ミナ使ハ
馬の山ぐ

物と考へるまで奥も迷ハ
じ暗でく木陰おなじ
所でいぶくく影をなが
め暮

定家

今ふるとも君ハ昔の時雨ま
てぬ〳〵心をみる人
の表と知れも夢ハ世の変
さぐめなや宮ゐの軒バ

の夕時雨ふるとに増る涙
なくあまのと増る袖村
乃露ハ宿りも知ぬ〳〵ふ
袖もぬきくべなりけり

野田

神風伊勢の御ぬれ〳〵ま
葉で敷ふるつけ者のた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

隅田川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たびしるべ

花道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冨士吉数

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぜゝの白浪さげくれば雪
うゝ流れ光ぞのうき姿乃
うかべゝ水の花実面白
き河瀬哉

今

[illegible]橘の実ゝ[illegible]がはちる
[illegible]花をとらし
[illegible]ちるを我さそふ
[illegible]ちる花哉

[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の名橘[illegible]乃
[illegible]雪をみへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]滝つ瀬の
[illegible]
[illegible]
[illegible]又ハ橘奥
[illegible]
[illegible]
[illegible]花を橘と雪ハ

みなぐちに、せきゐ集め持
うきぐも見ハ春の花滅
ハ我身のみ櫻ぞ色
さきぬが櫻ぞ散りしき

山路

いく重かて雲の山の春ハ待
こ受うく待て花を見て山
めぐり秋ハ名けさ紅を尋
く月みるかうきと山めぐり

冬ハ雪行時雨の雲の雪
をきて山めぐり日々
めぐ
雪めぐりて海ぬとも
ぬ妄執の雲の塵つ
山路くなきの鬼女が有様
みるも見るく業にかけ
谷ぞきて今と寂ふ
おもく見くが山又山
山四方山まと山ふ四方

[illegible]

善界

[illegible]時[illegible]聲の[illegible]

明王[illegible]れ出給へば

[illegible]せ[illegible]る十二天[illegible]

[illegible]の降魔の力を合せて

[illegible]

[illegible]天八枝をきめ[illegible]

[illegible]風[illegible]

山王権現[illegible]南ふ男山[illegible]に

[illegible]の尾山野や[illegible]山風か

[illegible]風吹[illegible]

[illegible]のつ[illegible]地[illegible]落ちか

[illegible]らと[illegible]の八枝の浪の

[illegible]又[illegible]

[illegible]たへ[illegible]

[illegible]力[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女郎花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恨みしころの錦かけま
くをかくしけなしと侍
あむ

三輪

糸きもどし人親ハくれぬ
るみくに契りむつごに
なるかいるゆくふりかく
年月を送る身の命をバ
何とうばらの恨なるく

通ひ侍ぬいとふん
多き事なり唯同じくハ
とこしなへに契りをとむ
べしと有しハ彼人養
ふ中に変る姿ハ恥しの
りてもそるる乱女
ん今ハ侍ハ通ふまし
契りも今宵ばかりなりと
熊野詣をバ別れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蟬丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃清水より新月くまなくや
ゆくらん望月は数乃あ
ゆみを迫つく数と走り
井乃かげうれば義なりし
清まりや鶯ハとゝろを
戴き黛を月ぐうを色くろ
て実ぢぐみの新うつる水
を浅くうつ浪のうつなの
我姿や

鞍生石

青ハ苔ハ新ハ苔ハ立石のかく
苔ふ打うち踏までも新
心と殺うて又生ゆる苔
れ苔物令き紅風のふ
くろ杉桂の枝よりきう
鶯蘭菊の花よりくれ住
ぬ苔の時もおもこゝき秋の
いゝ

野宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

錦木

秋の虫の音聞けば哀れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唐船

陸よりハ舞ふにたぜうどつ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陣太

組れハさしも実殺をたの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐんぜん白雲の神をぬかなる

芦刈

あまをぶねぜよ月の海よ

ぢごと唱ふる網手の高いや

あつやーーー

なれば[illegible]ましたげの[illegible]ハ
などかなるらん[illegible]雅俊卿の
[illegible]
[illegible]梅の花
[illegible]
[illegible]月のうちる
[illegible]天津乙女の[illegible]
[illegible]ハ又[illegible]
[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]の雨のあしべ[illegible]

[illegible]波あなたへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

木賊

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢上

[illegible]

[illegible]

くらゐなどと我身より背給
に成ぬるとバ世を思ひまた
殘る面影もまづしや桜
たそゝる中も軍うちのせ
かくれゆくふよ〳〵

紅政

寄秋
さもとばかの理政ハ少〳〵
若年の昔より所ハ仁
義礼智信の五常と守り
川ハ又花鳥風月の詩等
管絃の專ら書物と扨
法の道の露水のあくれよ
の中ゝ夢ゝ

今

上寄秋
一声の風管ハ秋暮嵐の雲
とうぐかせバ風風も見ぬ
めで給ハ指行ゝ
別れをつゝ移く舞遊べ

バ鶯の声ぞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と[illegible]や花の影波[illegible]と
たゝむで[illegible]けきバ[illegible]
方に[illegible]切[illegible]海[illegible]
かゝる[illegible]と遥
[illegible]

嵐山

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆく雲の[illegible]山[illegible]
[illegible]白波と[illegible]
[illegible]花の滝[illegible]久[illegible]
[illegible]

今

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

巻 終

[illegible]不思議やの[illegible]の[illegible]の[illegible]物
[illegible]しい[illegible]のけを[illegible]
[illegible]。花行と[illegible]く[illegible]
[illegible]すれ[illegible]おとろ[illegible]けれ
[illegible]殿ハ[illegible]徐陀[illegible]
悪と通[illegible]五逆と[illegible]
中れ[illegible]ぜんい[illegible]当[illegible]業
[illegible]

[illegible]万文[illegible]世れ[illegible]母[illegible]
十万[illegible]貧[illegible]ん[illegible]
[illegible]くの[illegible]くかのりんな
[illegible]ぶ[illegible]ことがと[illegible]帰[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

花月

高砂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

露かりこめて秋はあけぬる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

引きぬけば妻子をとこだ
てるを見て彼の男を行くい
くり半若ばいばくぞ
刀抜きてあわいとゞ
踏て行くに無抜し長刀
かまへだいこりふと行く
ぐつて無抜きくとを
てる角きも通れとつく長
刀をもつ刃とおてちぶへ

こせば追魚をくびこむ
長刀にのつてのきばむ
うたなりもちていけば
めくへ中をを追ぬ
ちゆときまバ中ものむ
すぶをほくもにかへて
拂へバ光ありつく真後見
ぶのちもうせて武家や
りこと敷る虜よ思ひを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小督

[illegible]

素面白の折々中なる五夜
中れ折月の色二千里の外

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ハ、ちまに、うゆ、雲
の雨ふり風なりかと
思ふ中をばさけきる根
の雲となりて今思い
きせん。うゆ人は思いも
らせ給へ

雲崖山

秋
色ふかく人の心ハ寒
の枝に霜ハとくとも物事

鑑ものゆ、花の見ぎり
、ハ、ハ、ハ

花はなきぬあり花すべ
の人とや花もぬ人とお
ゝ〜き

吉野天人

人をせぬ人や花のあく
ちとちるぬと花の落ふ
相宿すてりくのぶつ
ちかちまそ花の神ふ
まくまのなにたりいぎ

やあめん寺や花乃ちふ
ゆん寺と長くハ義長た
りて花ぶ別くそめて海
めんいぎくなきそなめ
ん

大佛供養

善財童子又立出て男ふゆ宮
立のきてハ与矢比聖尊成
べきなれハ今一ぢかハ寺あしく

[illegible]時節[illegible]とまつ[illegible]

大音あげてよばりけり

[illegible]は平家の侍悪七兵衛

景清と名乗り[illegible]

[illegible]丸と[illegible]

[illegible]すると後

[illegible]向ハ[illegible]

[illegible]ていまだ[illegible]

[illegible]固なまで四方へ[illegible]

[illegible]ぞあげける中に[illegible]

[illegible]すこし出てなぎ[illegible]

[illegible]ちゆくときまだ[illegible]

[illegible]でもとたりたちまち

[illegible]勝負を見せよけり今ハ景

清是とかりとすると祈

念をいつて彼あぎ丸

をけしかけせバきるとか

くとやまり山まげこと丸

入道けるが又ひて時節と

行べけきとこうこうとうとうと

雅雲の上べの清敏の先ハ
何りくるかるゝ唯れめ武
君乃恵ふるゝば清敏も
などかゝるよりけりなどか
ハりぶハぎりゝ

今

かくて清敏をあ奉り南ゝ小瀬居
宗近とあッて神鉾特乃ゝ子
なれバ狐とうゝにあぎゝた

うちまれ清敏乃ゝ
をみぐしたるをバ天の村雲
ゝとなれや天下
第一の剣ゝ清敏
四海を治へバ立
敏発も出ゝ
清敏の神鉾
小狐丸を勅使おさげ

村雲の花衣又むら雲に
ぬれし袖く東山稲荷の考
まゐりけれ

望月

ある時おもひいたり持佛堂に
まゐりて兄の一茶香を燒き
花を佛に供ずるにおもひ
ものをいはずをつくづく
まもりていたる兄ごゝろ

百せ者等の名をとゞめ我歌
五首とり書り紙をしらべ
げ繩をとりて我しをみる
てだてせしかばまくらもと
走りかゝりて市蔭と打落
さんとせしが兄の一刀を
ゆきて切りけるやつる敵
事なく佛をばゆるし
かゝるとばエ者とつゝと初

[illegible]

すかしめしるかをさやた

[illegible]

[illegible]

顔をうつせ法へや

[illegible]

住吉の松の陰うつ涼むれば

月落て波路遥の山と

涼めしは月落て[illegible]

今は入日や落ぬるらん

[illegible]

想訳なき八雲りをなをの

波路遥須磨明石紀の

海とをみくつり[illegible]

[illegible]山心ありけり[illegible]

[illegible]

の秋景の数く[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃郷の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつのまぶ夢もとゞ絶えは
[illegible]
まもゝ袖ぬまに越バ
せやまもも袖ぬ[illegible]
我も袖間ゆ[illegible]

養太敷

敷の声と時ふりくゞ
日と西山よりふけバ
乃ゆを近づく六ツの敷う
いふよ[illegible]の敷ハ鐘の数
行ゞなる事あ[illegible]敷
きいづくよ我ごとく思ひ
秋乃中ゝ[illegible]
や[illegible]四ツ
の敷ハ世乃中に[illegible]
[illegible]事と
きかゝいまゝバ独りあハ
思ひ九ツ乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松虫

[illegible]

面白やをゝ程よすゞゝ出れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ばよ皮ぐ名[illegible]の種を
[illegible]ぬ[illegible]く尾花のほのゝふ[illegible]
[illegible]へ[illegible]海[illegible]く[illegible]ぎり
[illegible]たるゝ[illegible]たゝ[illegible]
[illegible]ぎ[illegible]れ[illegible]たの[illegible]ふ
[illegible]虫の音[illegible]りや[illegible]らん
[illegible]の[illegible]やの[illegible]れらん

島道

[illegible]
うつ[illegible]く[illegible]ころ

[illegible]
[illegible]すの[illegible]をたゝ[illegible]く
[illegible]を[illegible]ぬ[illegible]と
[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ

[illegible]八日ごに物をぜ[illegible]

おもれ[illegible]だまとりの人[illegible]

の数をくて男[illegible]乱まして我

心ぞろすどろかなる数の

もちだき柏子とと人や

うく浪ちづしや[illegible]

なまて三五月の[illegible]

き数とてもまち服をと

といな心のゆをハまぐさ[illegible]

[illegible]すりくむ[illegible]の[illegible]物を

の雲ま立ぎりぬ[illegible]

あの板のゆ[illegible]の別の

声数を数うちつまて牧

をいぎやみりよよ

哥占

[illegible]

天[illegible]

青[illegible]

[illegible]の[illegible]

時と卯の花くぐしの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いきぎんと岩きる水よ
ちふせば〳〵きを早
瀬の滝川よあれ見よ
弥や吉瑞をぱりちん鯉
のとのづ〳〵ちぎ切る成古
うたのきく里めで
きもよ

雷電

岩ちふ〳〵本当の伝説よ

拍拍をもの雷をたるを知つ
ちつてかとくだきぬ〳〵妻
ぶくまつちきかけ後
バ拍拍怒火輝く生つて
ぢぢ〳〵にたつちぢ人あ
ぢ伝ぶぶ後でぎぐ
けきをまはんぢ洒
水乃ぬんをむちんでぢ
ちの毒を喝後バ

火燵ハきゆ乳煙のうちに
立かくるを亟相ハ行儒も去
らぬ矣後ゆくへを志す
うせ給ふ

照君

いぐくの羽織よ乳をうつさん
濃よ島蹟姿かと鏡よ寄宰
給ふ人れハ法を給ふも義
だ〜ア〜やおどろをいで
く髪すぢハ〜〜を雑
てゆ〜ち〜ゆいさ
らたまも絲ハ絲者ふ
てむすびさげ手よくさり
をさげれハ鬼紙ア人給ふ
姿をぶ〜鏡ふ寄宰ハ
ども人とハ人ぞ給ふ
ゆ〜ぬの我なしハ

四月の新つきうふ面目
なりとて立ぬ枝ぶりを思
君のまゆずみ柳乃多
小さなる鉢をあらはせ
老もまたまたかくまた
よもぎ花みくく
くすり日ハうまれ命たる
思ひ新をほのかなる月の
暮ぬ人の心ぞ

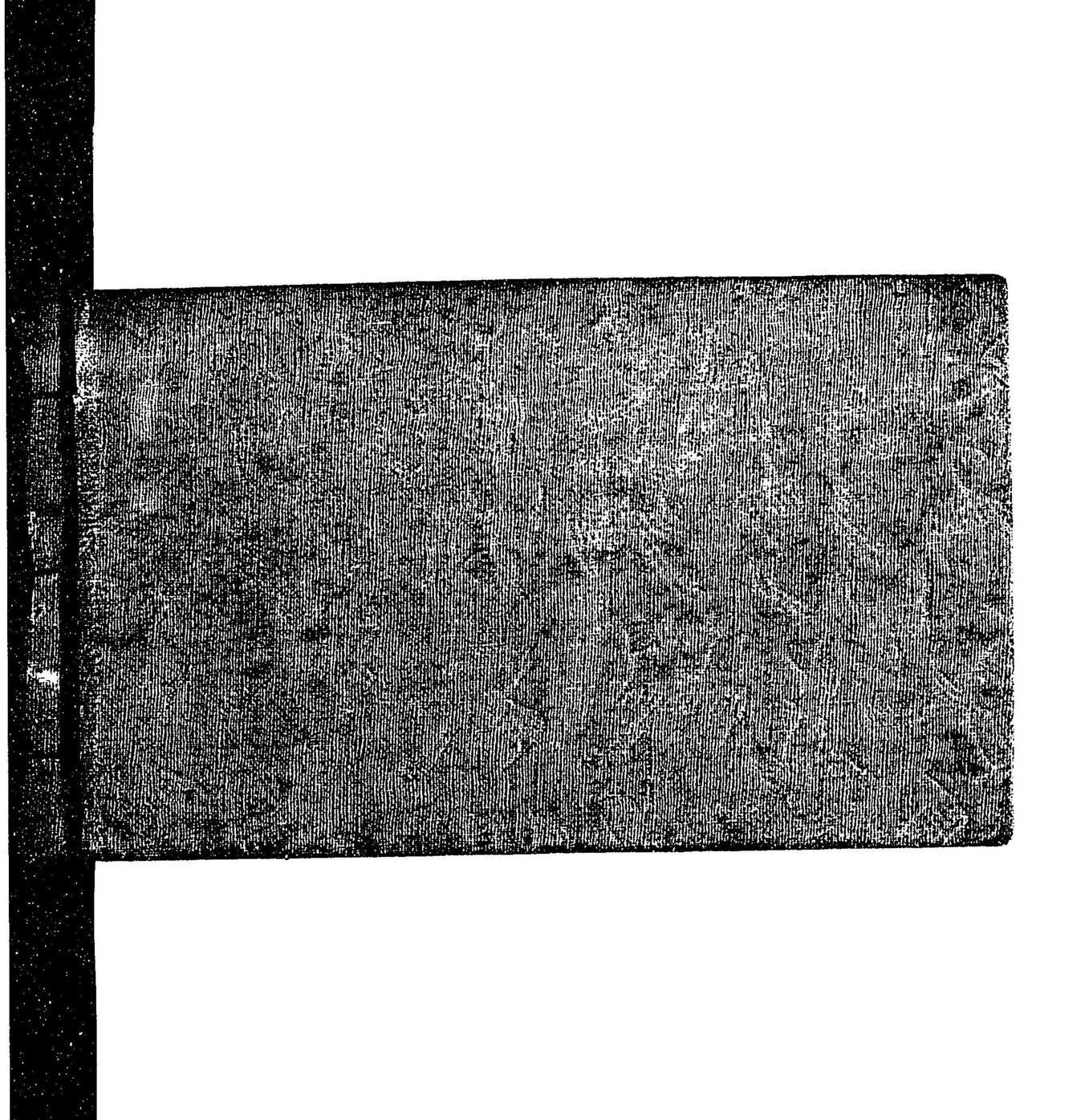
とうもろこしを焼き過ぎ

終

京都市五條通烏丸角
明治廿七年九月　平民　赤澤蘭渓　書

明治廿七年九月廿六日印刷
仝　年十月五日發行
（非賣品）

編輯兼發行者　京都市下京區五條通烏丸西入醒醐町第十五番戸　木崎嘉平

印刷者　仝市仝區室町通四條下ル鶏鉾町第十一番戸　大森幾治郎

印刷所　仝市仝區室町綾小路下ル白樂天町第三十三番戸　博成堂石版部